

CREATE HOPE in the WORLD
世界に希望を生み出そう

2023~24 年度年度

国際ロータリー会長 Gordon・R・McInally



東京麹町ロータリークラブ

本日の例会プログラム

第 27 回例会 2024.4.22 (#2409) 舞の間
例会ホスト・紹介係 末竹会員
受付係 浅野会員 杉山会員
司会者 地引会員 ソングリーダー 崎山会員

卓話 「三井物産の生成 AI 活用について」

三井物産(株)常務執行役員デジタル総合戦略部長
真野 雄司氏
紹介者 齊藤会員

前回の報告

第 26 回例会 2024.4.15 (#2408) 舞の間
例会ホスト・紹介係 末竹会員
受付係 浅野会員 杉山会員
司会者 植芝会員 ソングリーダー 鄭会員

卓話 「聞いて得する仏事の常識・非常識」

浄土真宗本願寺派松壽山光徳寺住職
中央大学名誉教授・経済学博士
斯波 照雄氏
紹介者 若林会員

会長報告

- 1) 本日は、経済博士でもあり御住職でもある東京調布むらさきRCの斯波様に仏事のお話を頂きます。宜しくお願いいたします。
- 2) 地区より台湾東部地震災害支援金の要請が届いております。寄付ボックスを回覧致しますので、よろしくお願い致します。
- 2) 藤田会員に、RLI グラデュエーションコースの修了証が届いております。

幹事報告

- 1) 台湾東部地震災害支援金にご協力ください。
- 2) 5月19日(日)の川越、健康ウォーキングにご参加下さい。
- 3) 5月20日は、現委員長、次年度委員長によるクラブ協議会がございます。該当の方はご出席をお願い致します。

例会記録

会員総数 58名 出席会員数 25名
ゲスト 1名 ビジター 0名
その他 0名 海外ビジター 0名
事務局 2名

ニコニコボックス

斯波照雄様(東京調布むらさき RC)
本日は卓話を致します。
若林会員:斯波(しば)先生、卓話を宜しくお願いいたします。
齊藤会員:皆様のお陰で旅行会は成功裏に終わりました。ありがとうございました
細谷会員:大変楽しい旅行でした。齊藤会長有難うございました
莊村会員:宝塚への旅大変楽しかったです
齊藤会昌・諸事有賀乙ございました
加賀会員:齊藤会長楽しい旅をありがとうございました。
末竹会員:宝塚、感動しました。齊藤会長ありがとうございました。

次回予告

第28回例会 2024, 5, 13 (#2410) 会場:舞の間
例会ホスト・紹介係 加賀会員
受付係 保科会員 藤谷会員
司会者 山田会員
ソングリーダー 吉沢会員

卓話「紡がれる美の物語—
ルネサンスからモダン・アートへ」
美術評論家 村上 哲氏
紹介者 齊藤会員



能の名曲を楽しむ～『高砂』『羽衣』

能楽シテ観世流 梅若 紀佳氏(3/11卓話 秋山会員紹介)



私は普段、観世能楽堂や国立能楽堂の舞台上に上がったり、お稽古を付けていたりしています。舞台上ではシテ方(主役)を務めていて、謡(うたい)と舞(まい)を担当しています。

中でも能の謡には、魅力が三つあると私は考えます。一つ目に、言葉が美しいことです。謡は和歌を題材にしているものが多く、それが言葉の美しさにもつながっています。またリズムも五七五からなります。二つ目に、自分で謡うと楽しいということです。聴くよりも謡った方が言葉も入ってきます。また声を出すことによって深呼吸のように空気を体内に取り込んで前に出すので、リラックスできます。三つ目は、謡に思いを寄せられることです。誕生日祝いでは「老松」、結婚式では「高砂」、桜の時期には「羽衣」がよく謡われますが、自分の気持ちを乗せたり、誰かのために謡ったりすることができます。今日は3月11日、東日本大震災が発生した日ですが、鎮魂や弔いの意味を込めて謡うこともあります。

謡の声は、普段の声と違うというイメージを持つ方も多いと思います。私は3歳から舞台上に立っているのですが、24年間、喉を育ててきました。急に謡のときのような声を出すのは難しいですが、近づく方法はあります。それは、おなかから声を出すことです。普段は胸呼吸になっている浅い呼吸を下まで落として、丹田に力を入れて前に出すイメージです。

私がプロになろうと決めたのは、高校生ぐらいのときでした。能楽師は男性が多いイメージがありますが、戦後は女性も舞台上に立てるようになりました。私もかつては子役だけやって、大人になったら別の仕事に就こうと思っていたのですが、能の魅力に気付いてしまい、プロになろうと決めました。能の謡は性別に関係なく親しまれていた歴史があるので、ぜひ皆さまも声に出して、脳の謡を祝いの席で謡ったり、日々の生活に取り入れていただきたいと思っています。

私がプロになろうと決めたときに実践していたのが、おなかから前に出す謡い方でした。これを繰り返しているうちに喉が痛くなって、喉から血の味がするようになったのですが、それは謡い方が悪かったためです。でも、悪い謡い方を経験しないと喉が強くならないし、喉に負担をかける謡い方も学べません。祖父から稽古を受けていたときは、「血の味がするまで毎日5時間ぐらい謡い続けなさい」と言われ、ずっと謡い続けました。成長過程では声の厚みがどんどん増し、どんどん成長していくので、皆さまも声を前に出すことを意識することで喉が強くなるかもしれません。

「高砂」が結婚式でよく謡われるのは、夫婦にまつわる演目だからです。能は大体1曲1時間半かかるのですが、一つの物語を紡いでいくために役者同士のせりふでのやりとりがあって、盛り上がってくると謡が入り、さらに盛り上がると舞が入るというミュージカル的な要素があります。

「高砂」も物語の一部です。高砂の地にやって来た神官が、ある老夫婦と出会い、高砂の松と住吉の松が夫婦松で、離れている場所に生えているけれども、老いるまで仲良く過ごすことができたという伝説を老夫婦から聞きます。実はその老夫婦が松の精だったのです。高砂の松は女性で、能の「高砂」は神官が高砂から住吉に移動しようとする場面であり、女性が嫁ぐイメージがあることから結婚式でよく謡われているのです。

「羽衣」は、羽衣伝説を基に作られた1曲です。能は、全国各地の伝説を基に作られたものが多いです。天女が富士山の麓で水浴びをしていたら、ある漁師が天女の羽衣を盗みます。羽衣がないために月に帰れずに悲しんでいた天女にその漁師は、羽衣を返す代わりに舞を見せてほしいと頼みます。祝いの席でよく謡われる「羽衣」は、羽衣を返してもらった天女がお礼に、国土に宝と幸せを満ちさせ、月へ帰っていく場面が基になっています。

今日は能の魅力に気付いていただけましたでしょうか。本日が能に親しむきっかけとなり、ぜひ能楽堂に足を運んだり、謡のお稽古を始めたりしていただければと思います。

クラブだより No.27

『多数ご参加下さい』

健康ウォーキング in 川越 5月19日(日)

9時 JR 川越線川越駅・交番前 集合

昼食のみご参加の方は、12:30に

「小川菊」へお越しください

現・来期各委員長対象・クラブ協議会

5月20日(月)18:30～ @維新號

東京麹町ロータリークラブ

設立	1968年6月17日	〒102-0093
例会日	月曜日 12:30	千代田区平河町 1-3-8
例会場	ホテル・ニューオータニ	平河町プラザ 204号
		TEL:03-3263-9220
会長	齊藤 栄太郎	FAX:03-3263-9122
幹事	藤田 進太郎	e-mail office@koujimachi-rc.jp
会報委員長	山本 顕三	URL: www.koujimachi-rc.jp